

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 2334 号

Prevalence and features of impaired glucose tolerance in young underweight Japanese women

日本人低体重若年女性の耐糖能異常(IGT)者の割合と特徴

佐藤 元律 (さとう もとのり)

博士 (医学)

論文審査結果の要旨

本論文は、低体重者の割合は日本が先進諸国で最も高く、低体重の中老年女性は2型糖尿病のリスクとなることが示されているが、若年低体重者の耐糖能異常の有病率や特徴は明らかとはなっていないため、経口ブドウ糖負荷試験を用いてその割合と特徴を明らかにしたものである。本研究では、56人の正常体重 (BMI 18.5-23.0 kg/m²) と98人の低体重 (BMI 16.0-18.49 kg/m²) の若年女性を募集し、経口ブドウ糖負荷試験を使用して耐糖能レベルを評価した。次に、低体重女性の正常耐糖能者と耐糖能異常者でインスリン分泌 (insulinogenic index)、全身インスリン抵抗性 (Matsuda index)、脂肪組織インスリン抵抗性 (Adipo-IR) や様々な代謝パラメーターを比較した。耐糖能異常の比率は、通常体重者よりも低体重者で有意に高かった (1.8% vs 13.3%)。低体重の耐糖能異常者は、正常耐糖能者に比べてインスリン分泌、最大酸素摂取量が低く、空腹時遊離脂肪酸と全身・脂肪組織でのインスリン抵抗性が高かった。体組成は耐糖能異常群と正常耐糖能群で同等だった。

本研究は、若年女性において通常体重者よりも低体重者で有意に耐糖能異常の割合が高く、その耐糖能異常の特徴としてインスリン分泌低下だけでなく、全身と脂肪組織のインスリン抵抗性も関与することを初めて明らかにした臨床的に意義ある論文である。

よって、本論文は博士 (医学) の学位を授与するに値するものと判定した。